# 水曜通信37

東北学院宗教センター編

2024年
5月

## 第72回 水曜公開礼拝
## 2024年５月15日（水） 18：30－19：00

＜礼拝次第＞

前　奏：H.パリー作曲
「ひくれてよもはくらく」による前奏曲

讃美歌：39番「ひくれてよもはくらく」

聖　書：ヨブ記　30：24－31

讃美歌：399番「なやむものよ、とく立ちて」

説　教：「災害は突然に、救済はどこに」

頌　栄：541番「ちちみこみたまの」

後　奏：D.ウッド作曲
「なやむものよ、とく立ちて」

**説教**
宗教センター主任
大学宗教部長
原田　浩司

**奏楽・第2部演奏**
礼拝オルガニスト
小野　なおみ

後奏の後、小野なおみ氏によるオルガン、中川郁太郎氏（本学特任准教授）と平琉之介さん（本学宗教部聖歌隊４年生）の二重唱による賛美を行います。

次回第73回水曜公開礼拝は６月19日です。
第２部は２月15日に召天された鐸木道剛先生の追悼記念会を開催いたします。

## 第71回 水曜公開礼拝報告（説教：佐藤 由子、奏楽：椎名 雄一郎）

2024年４月17日（水）　18：30－19：00

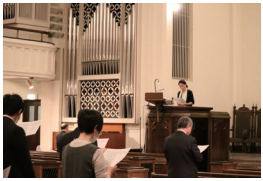
讃美歌：第二編 55番「主イエスは死に勝ち」
聖　書：ヨハネによる福音書　16章23-28節
讃美歌：第二編 163番「主イエスのみ名こそ」
説　教：「常世の光」
頌　栄：543番「主イエスのめぐみよ」

【説教要旨】

ヨハネ福音書において、主の御名が記される箇所には、共通して繰り返される言葉があります。それらは、命、光、愛、神、言葉、まこと、栄光、喜び、証し、業、来られた方、遣わされた方、遣わす方、救う方、父、子、聖霊、真理の霊などです。特に聖霊については、父なる神が主イエスを遣わし、主イエスの「名」によって聖霊が遣わされとあります。主の御名に秘められた力は、私たちの想像をはるかに越えて大きいのです。主イエスの名によって願うなら、主なる神は、私たちに最善のものを与えて下さる。これが聖書の約束です。私達は、主イエスの名によって、大胆に祈り願うものでありましょう。

（宗教センターチャプレン　佐藤 由子）

前　奏：J.B.ダイクス作曲　「聖なるかな」
後　奏：J.S.バッハ作曲《われらの救い主なるイエス・キリスト》BWV626



前奏は『讃美歌』66番による前奏曲です。アメリカではこのような現代的な前奏がよく演奏されます。今年度の水曜礼拝を、まず神様を賛美して始めます。イースターのドイツ・賛美歌に暗いメロディーが多いのは、長調、短調などの調性音楽ではなく、教会旋法に拠っているからです。後奏はルターによって創作されたイースターの賛美歌です。1524年に出版のルター初めての賛美歌集に収められました。

（本学文学部教授　椎名 雄一郎）

**礼拝とその後の19時00分から30分までの椎名 雄一郎氏によるオルガンによる賛美に43名の方が参加されました。**

## 礼拝後、音楽による賛美（オルガン演奏：椎名 雄一郎）

1．D.ブクステフーデ作曲　第1旋法によるマニフィカト BuxWV 203
2．D.ブクステフーデ作曲　第9旋法によるマニフィカト BuxWV 205　Versus 1、Versus 2
3．J.S.バッハ作曲　マニフィカトによるフーガ　BWV733
4．D.ブクステフーデ作曲　前奏曲　ニ長調　BuxWV139

本日の賛美のテーマは「マニフィカト(マリアの賛歌)」です。ルカによる福音書２章46～の55節の「マリアの賛歌」は、アドヴェントの時期によく読まれる聖書箇所です。そしてカトリック、イギリス聖公会、ルター派などでは、毎日の晩課(夕の祈り)で歌われてきました。「マリアの賛歌」は、マリアが主を賛美して歌った歌で、イエスが生まれる前に、すでにイエスについて歌っています。北ドイツ・リューベックで活躍したD.ブクステフーデは３曲のマニフィカト残しています。《第１旋法によるマニフィカト》には旋律の断片しか現れませんが、歌の様々なキャラクターが聴かれます。《第９旋法によるマニフィカト》は一部の変奏のみしか残されていないのではないかといわれています。今回は同じメロディーを使用しているバッハのフーガを組み合わせました。《わが魂は主をあがめ》BWV648も「マリアの賛歌」で、教会カンタータをオルガン用に編曲されています。賛美の最後はイースターらしく、華やかな《前奏曲　ニ長調》を演奏します。

（椎名 雄一郎）

# クリスマス以外のキリスト教三大祝祭日 ①
# イースター（Easter:復活祭）

日本全国にはキリスト教学校が各地にあり、季節やそれぞれの学事暦に則してキリスト教の行事が行われています。特に「クリスマス（Christmas）」は各校が総力を挙げて取り組んでいるキリスト教の「三大祝祭日」の一つですが、クリスマス以外の祝祭日はあまりフォーカスされてはいないのではないでしょうか。2024年度の春の季節を迎えたこの時期に重なる、クリスマス以外の三大祝祭日をご紹介します。

**＜イースター＞（毎年３月～４月に開催）**

古代よりキリスト教の最大の祝祭日だったのが「イースター」であり、十字架刑によって死なれたイエスがその三日後に甦ったことを記念する日です。したがって日本語では「復活祭」と表現されます。この日、死者の復活という神による人知を超えた奇跡の力がイエス・キリストを通して明示されたことを祝います。そして、この神の力は、人間が抗うことのできない圧倒的な罪の力も死の力をも超克し、凌駕することを記念し、祝います。

このイースターの日には、キリスト教会ではよく「イースター・エッグ」が礼拝後に配られます。

「卵」は「新しいいのち」のシンボルであり、茹でた卵を鮮やかに彩り、多くの人々に配り、分かち合われています。復活は「永遠の命」という「新しいいのち」の象徴であり、神の賜物としての「いのち」は各自が独占するものではなく、他者と豊かに分かち合うことでより彩り豊かになり、より一層祝福されることが含意されて、皆に配られます（諸説ありますが、私はこの解釈が気に入っています）。

あいにく、イースターが祝われる３月から４月の時期はちょうど年度の変わり目です。各キリスト教学校も卒業式や入学式、クラス替えなど、教務上の業務で忙殺される時期となり、イースターを祝えていませんが、東北学院でもイースターを記念できたらと思います。　（宗教センター主任　原田 浩司）

# ― 建築が語る東北学院の歴史（28）―

2024年度は、旧多賀城キャンパスの続編から物語を再開したいと思います。

東北学院が多賀城の地に取得した最初の校地は、今の笠神運動場でした。陸上自衛隊多賀城駐屯地に接する場所には、かつて海軍工廠（工場）が在りました。都心部の東二番丁・土樋両校地では如何ともしがたい運動場を確保するため、東北学院は郊外のこの場所に白羽の矢を立て、払下げを申請し、昭和28年（1953）３月に認可が下りました。早速初夏には造成工事が始まり、10月16日には開場式典が行われました。翌年12月にはさらに、隣地に寄宿舎（定員44名）が竣工しました（寄宿舎は平成８年に閉鎖となり、いまはその跡地に市営鶴ケ谷住宅が建っています）。

一方、昭和32年（1957）12月になると、仙台市の中学校長会から東北学院に高校の定員増加を求める歎願書が提出されました。東北学院はこれを受け入れる決断をしますが、その実現には校舎の増設が必要不可欠で、なにより土地の取得が大前提となりました。多賀城の旧校地（たまたま同年に米軍が撤退して遊休地となっていました）に目を向け始めたのはこの頃であったと言われます。後に工学部が置かれる多賀城キャンパスは、もともと高校の増設計画を背景として浮上してきた土地でした。　（工学部　﨑山 俊雄）

図１　笠神運動場（2024年４月﨑山撮影）

図２　竣工時の多賀城第二寄宿舎（東北学院史資料センター蔵）

## 『讃美歌』121番《馬槽のなかに》の作曲者
## ― 安部正義 ―

安部正義はクリスマス礼拝などの行事で広く親しまれている『讃美歌』121番《馬槽のなかに》を作曲した教会音楽家・声楽家です。

安部は1891年に仙台市でクリスチャンの一家に生まれました。学校教諭であった父の転勤により、幼少期は現在の北海道紋別市で過ごしています。同地の自然環境は厳しく、経済的にも楽ではない一方で、母の愛唱する讃美歌や、父の弾くオルガンの音色に親しんで育ったといいます。

東北学院卒業当時の安部正義

父の転勤により再び来仙した安部は、1906年に東北学院普通科へ入学。この時初めて本格的な音楽と出会い強い衝撃を受けます。合唱に惹かれるようになり、猛練習の末、当時加入条件の厳しかったグリークラブへの加入を許されます。クラブを指導していたゾーグの奨めもあり、普通科卒業後すぐに留学を決意。10年以上アメリカで苦学して声楽を修学し、帰国後は作曲家や音楽教師などとして活躍します。

安部は晩年、旧約聖書『ヨブ記』を題材にしたオラトリオ《ヨブ》を発表します。オラトリオは、17～18世紀に主にヨーロッパで発展した宗教的・道徳的な内容を題材とした劇音楽で、欧米では暦の節目に合わせて教会などで演奏される、伝統的な音楽様式の一つです。《馬槽のなかに》の旋律も使われている《ヨブ》は、安部の集大成の作品といえるでしょう。日本人が初めて作曲したオラトリオである《ヨブ》は、日本キリスト教音楽史上重要な作品と評価されています。

（東北学院史資料センター）

## TGCF in スプリングカレッジ

大学宗教部主催のスプリング・カレッジは、毎年４月、キリスト者推薦入学制度で入学された学生の方々を対象に行われますが、今年度はTGCFで活動する学生の方々も参加させていただきました。

TGCFは、新入生が加わった新しいメンバーで、Matt Redmanの「10,000 Reasons（Bless the LORD）」というワーシップソングを讃美しました。心からの讃美と礼拝をみんなで献げていこうという呼びかけであり、信仰の告白のひとときでもありました。またその後、宗教部聖歌隊が「主は我が飼い主」の讃美歌を献げ、東北学院のキリスト教活動の豊かさを覚えるときとなりました。

春のキャンパスは、新入生・在学生で華やかに賑わっています。一人一人の歩みが、主の守りと恵みの中で豊かに導かれますように、皆様のお祈りに覚えて頂ければ幸いです。

（宗教センターチャプレン　佐藤 由子）

LIFE LIGHT LOVE SINCE 1886

いのち　ひかり　あい

東北学院スクールモットー
LIFE LIGHT LOVE（いのち・ひかり・あい）

東北学院宗教センター編「水曜通信」
第37号
2024年５月１日発行
〒984-8588　仙台市若林区清水小路３-１
発行責任者：宗教センター主任　原田 浩司
東北学院宗教センター　TEL：022-354-8310
Email：c.center@mail.tohoku-gakuin.ac.jp